

# 我がふるさと・わが母校

第76回



上越市立 城北中学校



## 地域とともにある学校を目指して

上越市立城北中学校 校長 竹田 幸雄

妙高山を南に仰ぐ高田（頸城）平野は、関川水系の清流が縦横に流れ、長い年月を経て豊かな穀倉地帯となってきました。その中心部に上越市は位置しています。

昭和四十六年に旧高田市と旧直江津市が合併して旧上越市が誕生しました。そして、周囲の十三ヶ町村が加わった平成十七年の大合併を経て、現在の上越市となりました。海水浴場とスキー場があるように、海岸から山間地までの広大な面積のもと、人口は二十万人を突破し、特例市に指定されています。

高田地区にはかつて高田城があり、大きな城下町を形成していました。再建した三重櫓以外には城らしい建物は残っていませんが、堀の周囲を中心に、たくさんの桜が植えられ、春は観桜会で賑やかになります。また、上杉謙信公の居城跡が残る春日山城趾、スキー発祥の地の金谷山など、史跡名勝が数多くあり、学校の教育活動で市内の児童・生徒がしばしば訪れています。

本校は昭和三十四年九月、大町中学校と春日中学校が統合され、城北中学校が開校しました。昭和三十六年には三十七学級、千七百八十三名の生徒を擁する大規模校となりました。

その後、学区変更による分離や統合をはじめとして、様々な出来事を学校沿革誌に収めながら、平成二十年十一月、城北中学校は新校舎に生まれ変わり、創立五十周年を迎えるに至りました。これまでに城北中学校を巣立った卒業生は一万五千六百六十三名。同窓生も六十七歳から十六歳まで、年齢層がずいぶん厚くなってきました。

さて、城北中学校の教育目標は、「深く考え、ともに向上を目指す生徒」です。この目標の具現化のために、先輩教職員は、学ぶ喜びの醸成、生徒会活動の活性化、望ましい学校風土の確立に向けて努力を続けてきました。また、生徒会も「限りなき前進こそ我らの姿」というスローガンを代々踏襲し、学校行事や研修部活動に輝かしい実績・伝統を築いてきました。

現在、私たちは学力向上とキャリア教育、そして同和教育を学校経営の柱に据え、新たな伝統を築くべく教育活動を展開しています。また、上越市が推進するコミュニティ・スクールのモデルともなるよう、地域とともにある学校づくりを目指しています。

## 城北中学校 校歌



春、グラウンドから見える新校舎

- 一 白妙輝よう 妙高の峰には気高き 啓しあり 希望の青空 かけ行かん 城北われら 若人 われら
- 二 さわだらとどろく 日本海 なみにも厳しき いさめあり 不断にいそしみ 鍛えまし 城北われら 若人 われら
- 三 そそぎて尽きせぬ 荒川の流れに清けき 標（べ）あり 智徳をくみてぞ みがかまし 城北われら 若人 われら
- 四 古土ゆたけき くびき野の雪にも花にも 教えあり 理想のともしび かがげまし 城北われら 若人 われら

## 学校の紹介

### ◆校区について◆

城北中学校の校区には、本町、東本町、大町、仲町と雁木通りのある昔ながらの風情が残るエリアがあります。豪雪地における町家が庇を伸ばして繋げることで、人が雪を避けながら街を歩ける独特の構造です。江戸時代から整備されたこの



雁木通りにある高田小町

雁木通りは、今も梅雨時の大雨や、真夏の日差しを避けたたり、大雪の日に街を歩いたりするのに大変重宝されています。

その雁木通りにある本町には、「高田小町」という町家が公開さ

高田世界館 (旧高田日活)



れ、伝統的な暮らしの一端を伺わせます。また、通りを挟んで向かい側には、旧高田日活劇場が「高田世界館」として保存され、日本で最も古い現役の映画館として地

域の人々に愛されています。

一方で昭和町や御殿山などの新興住宅地では近代的な家々が多く立ち並んでいます。大きな道路が通り、郊外型の大型スーパーやファーストフードショップができ、新しい街が形成されつつあります。

学校の窓からは南葉山から妙高山までの美しい稜線が一望でき、また学校のすぐ近くには、青田川と儀明川が流れています。美しい自然の中、昔と今が混在するかのような校区と言えます。



新校舎3階から南葉山と妙高山を臨む

### ◆校舎の改築◆

すでに取り壊された昭和の校舎

旧校舎のまわり階段



は建設当時、大変モダンな造りで、大きな鳥が舞い降りたような美しい外観を誇っていました。校舎の中

も先駆的なデザインが

施され、中央部には三階まで続く「まわり階段」と呼ばれたスロープがあり、グラウンドに向かう生徒昇降口には、「波形屋根」がありました。残念ながら老朽化が進み、新校舎建設の話が持ち上がったときに、城北中を卒業した多くのOBの方から、このまわり階段と波形屋根の玄関を残したいという希望が多く寄せられました。

平成十八年十一月完成の新校舎には、その願いに応えるように、波形屋根とまわり階段が城北のシンボルとして受け継がれました。特にま



旧校舎と波形屋根

新校舎 まわり階段



わり階段では、定期的な生徒によるコンサートが開かれ、階段がそのままギヤラリーとなっていて、たくさんの生徒が演奏を聴いています。

また、OB(第六回生)である創画会会員柴田長俊さんのステンドグラスが生徒玄関上の窓に飾られています。四季の陽光を受け、美しく輝いています。



柴田長俊 作 『夢を光に』

### ◆生徒◆

現在生徒は東本町小学校、飯小学校、大町小学校を中心に入學してきますが、最近では上越教育大学附属中学校や、新設された直江津中等教育学校、さらにはスポーツを目的に県外の中学校へ進む生徒があるなど、校区の小學生がすべて城北中へ進学するとい



新校舎 新しい波形屋根

## 学校生活の紹介

### 【入学式】

今年度は  
一年生百六  
十五名が入  
学。希望に  
胸膨らませ、  
名前を呼ば  
れると元氣  
に応えてい  
ました。



### 【授業風景】

今や電子情報ボードを使った授業  
が行われて  
います。城  
北中学校は  
全教室に設  
置していた  
だいていま  
す。



### 【壮行式】

研修部活  
動が大会へ  
臨む直前、  
全校で応援  
をします。  
色とりどりのユニフォームが並び、とても壮観です。



### 【まわり階段コンサート】

学校のシン  
ボル、まわり  
階段でミニコ  
ンサートが開  
かれます。階  
段がギヤラ  
リーになり、  
多くの生徒が  
聴きにきます。



### 【夢・チャレンジ〜職場体験〜】

二年生生徒  
全員が五日間  
の職場体験活  
動を行います。  
働くことは  
何か、普段の  
生活では学べ  
ないことを現  
場で勉強しま  
す。



### 【体育祭】

二期期早  
早に開催さ  
れる生徒が  
一番楽しみに  
している  
行事です。  
生徒会が主  
催し、競技  
に応援に生  
徒が大活躍  
します。



### 【中ノ俣ウォーキング】

城北中学校  
から中ノ俣地  
区まで、秋の  
週末にPTA  
主催で遠足を  
実施していま  
す。校区の広  
さを改めて感  
じます。



### 【スタートライン】

生徒有志が地元の演劇経験者の指導のもと、演劇集団を結成し公演します。今年で十六年目。昨年は「発見！人間力」という全国放送（テレビ朝日）の番組で取り上げられました。



### 【合唱祭】

体育祭と並んで、生徒がとて熱心に取り組む行事です。学級の団結が美しいハーモニーを生みます。



### 【スキー授業】

スキー発祥の地である高田に生まれた子はやはりスキーが上手です。ただ、授業は毎シーズン妙高へ行くのが恒例になっています。



### 【卒業式】

三月に五十  
三回目の卒業  
式を挙行しま  
した。証書授  
与の後、校長  
始め、多くの  
方の祝福を受  
け、それぞれ  
の進路に向け  
て羽ばたいて  
いきました。



### 【修学旅行】

三月、二年生生徒が関西方面に修学旅行に出かけました。見知らぬ地で班活動や体験活動を行い、見聞を広げました。



## 地域とともにある学校へ

「コミュニティスクール・城北」を目指し、これまで城北中学校が実践していることを紹介します。

### ◆地域と共有する◆

城北中学校は地域の方が自分たちのコミュニティとしても訪れることができるような学校開放を行っている。一例を挙げると、一階にあるメディアルームにはPCが四十台ほど設置してあり、様々な団体がコンピュータ教室をそこでを行っています。生徒が通常の学習活動をしている時間帯に、地域の方々がこの部屋をPCの技能を高めるために利用しているのです。また、図書室には「愛の風文庫」という名称で、地域の方々向けに蔵書を揃えており、活用していただけるようになっています。旧校舎の時代から、地域の方が夜間に社会体育として体育館を活用したり、市の吹奏楽団が音楽室を利用したりしていましたが、生徒と地域の方が同じ時間、同じ校舎を共有しているところ



地域の方のPC教室

ろに城北中学校の特徴があると言えます。

### ◆地域を活用する◆

学校開放だけではスクールコミュニティとは言えません。地域の方から生徒が様々なことを学ぶ機会を増やすことも重要なことと理解しています。城北中学校には「愛の風ボランティア」という方々が様々な面で城北中学校の教育を側面から支えていただいています。



読み聞かせの会

まず図書室では、地域の方が定期的に読み聞かせのボランティアをしてくださっています。中学生にも結構好評で、楽しみにしている生徒も少なくありません。また、城北中学校のシンボルとも言えるまわり階段下のスペースで、お茶会を行い、生徒だけでなく地域の方や子どもたちが参加して茶道に親しんでいます。



まわり階段下でお茶会

昨年度、ようやく念願であった学習ボランティアに来ていただくことができました。夏休みの中学生の方二名にお出でいただき、生徒に数学や英語の基礎基本をていねいに指導していただきました。また、現在、特別支援学級の学習には、上越教育大学の院生にボランティアとしてお手伝いをいただいています。普段の授業に元教員の方からボランティアとして入っていただけなものか検討中です。

この他、国語では書道や俳句の授業に、理科では生物の授業に肉屋さんや杜氏の方から直接教えていただく授業を行うなど、地域の教育力を導入しています。専門家の話は生徒の興味や意欲を高めるために大いに役立っています。

### ◆地域に貢献する◆

竹田幸雄校長は日ごろから生徒に「人のために貢献できてこそ大人」と話します。この言葉の意味を生徒たちも受け止め、昨年度から生徒会を中心に、「地域貢献活動」が始まりました。主に夏休み活動をするというものです。各町内代表の生徒が町内会長さんと連絡を取り合い、神社の清掃や公園の除草などに参加しました。昨年

度の計画が選かった反省を踏まえ、今年度は春先に各町内生徒代表が町内会長を訪問し、連絡を十分取り合い、しっかりと計画で行うようにしています。町内



生徒会企画の地域貢献活動 昭和町2丁目

も、清掃活動だけでなく、町内の祭の準備や、正善寺工房での手伝いなど、多様な要請をいただけるようになりました。地域の一員として汗をかくことが、彼らの成長に大きな効果を生むことでしょう。

### ◆最後に◆

地域に学校を開くことや地域人材を活用することは多くの学校で行われています。城北中は生徒が地域に積極的になることで、地域が中学生を知る機会を増やしています。お互いの顔が見える関係づくりを基盤にして、地域とともにある学校、「コミュニティスクール・城北」を目指してこれからの取組を推進していきます。

(編集 教頭 石川 清春)

# 地区人会・郷人会だより

## 東京堀之内会 第二十五回総会

◎ 高橋 進 会長

梅雨の最中、太陽ものごく去る六月二十六日(日)に三五〇余名のもと、第二十五回の総会を開催した。

市当局から中川副市長をはじめ市会議員四氏のほか前市議、元町議のお出ましに加えて、各集落の自治会長



屋台囃子連



関昭代さん直筆の百歳の詩

本会は二十五周年の祝いの年と言うこともあつて、今年百歳を迎える関昭代さんを祝う「百歳の会」を先

なお、二十五回皆出席者十二名にも同様の目録が贈呈された。総会は予定通りに滞りなく終了。星野初代市長の発声で乾杯。天神囃子に祝い太鼓の演奏、ふるさとの合唱等々と続き、郷土の芸能で一足早い十五夜祭りを堪能した。そしてお互いの健康を祝し万歳を交換し合い、来年の集まりを約して三本メをもって会を終了、土産の百合の花を手に各自帰路に着いた。

(高橋 進 記)



創立25周年皆出席表彰者



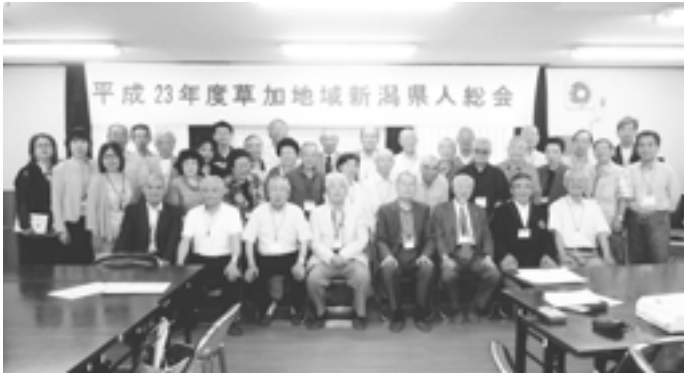
25周年を祝う鼓遊の寿ぎ太鼓

# 創立三十五周年記念総会を迎えた草加地域新潟県人会

◎小林 周平 会長

平成二十三年六月十九日(日)正午より、草加市立吉町集会所において、草加地域新潟県人会の創立三十五周年を祝う総会が開催されました。

当日は、会員など四十余名が出席、東京新潟県人会より、川村敏夫副会長が出席、昨年の創立百周年記



総会参加者一同 市立吉町集会所 H23・6・19

念事業や、東日本大震災への義援金の協力について御礼のご挨拶がありました。

このあと、定例の総会が開催され、いずれの議題も満場一致承認され記念の懇親会に移りました。

懇親会では、恒例の生ビール呑み放題や、料理が並べられ、新潟の銘酒「越の寒梅」などを味わいながら故郷の思い出を語りあいました。

宴会では、ギターの生演奏の歌唱や、カラオケによる楽しいひとときを過ごし、最後に全員で「誰か故郷を思わざる」や「ふるさと」を合唱し、故郷の名物「笹だんご」をお土産に散会しました。

会場では、東日本大震災への義援金の募金も行われ、市を通じて被災地へ送られました。

さて、三十五周年を迎えた本会の設立は古く、昭和二十五年には県人会がありました。その後衰退し昭和五十一年に、隣町（現八潮市）の会員も参加し、草加八潮新潟県人会

として再建され。この日を発足の日とし、今年で三十五周年となります。本来ならば、この記念すべき節目

の年に数々の記念事業を行う予定でしたが、折しも東日本大震災の発生により、事業を自粛。ただ、毎年実施している親睦旅行は、東北への支援を兼ねて、越後の上杉家が豊臣秀吉により移封されたかつての居城「公津鶴ヶ城（百二十万石）」と、直

江兼続が秀吉より賜り、後に上杉家の居城となった米沢城跡を訪ねます。いずれも、今回の震災で風評被害で困っている場所です。

米沢は、越後から取り入れた織物（米沢織）や鯉、うなぎ、などが今でも残されています。かつて米沢は、吉良上野介の長男吉憲が養子となり、九代藩主には、高鍋藩より養子

に入った治憲（鷹山）などがおり、幕末まで存続し、明治には廃藩置県により上杉家は伯爵となります。

今回の総会で、会長の三留偉太郎氏が勇退し、新会長に小林周平氏（妙



東京新潟県人会川村敏夫副会長あいさつ

高市出身）を選出しました。

毎年、本会は、秋の市民まつり（今年には震災の為自粛）に代わり商工まつりに新潟ふれあい店を出店して、「こしひかり」など、新潟物産の普及に勤めます。このほか、暑気払い、忘年会、新年会、会のブルゾンの新調、会名変更による会旗の作成などを控えています。みんな元気です。

（広報担当 樋口 素秋 記）

# 臥龍同窓集う！村松高校東京同窓会 第五十四回定期大会

◎鈴木 多喜男 会長

☎〇四四―八五四―八六三五番

六月十二日正午から、九段下のホテル グランドパレスにおいて第五十四回定期大会を開催した。

母校から来賓として、四月に着任された鈴木重行校長と田部健一先生（進路指導）、同窓会本部からは相田豊会長、阿部律雄・浅田光雄両副会長、事務局三名を迎え、徳永道子・安中信夫両幹事の司会で進行了。

郡司正大実行委員長の開会のこと

ばで大会第一部総会の幕を開け、鈴木多喜男会長のあいさつの後、相田同窓会長からは母校創立百周年記念事業・記念誌への、鈴木校長からは母校のあるべき姿への、それぞれあいさつと支援の願いがあった。



村松高校東京同窓会 第一部総会

来賓あいさつその後、総務・財務・広報の各委員長からの一年間の活動報告を承認。最後に会則の改正を承

認して第一部を終了。

第二部は、飯吉高さんのトランペット演奏、亜季子夫人のピアノ伴奏でし



飯吉高さんのトランペット演奏（ピアノは夫人の亜季子さん）

ばし堪能。

第三部の懇親会は、杵渕政海先輩（二回生）の乾杯の音頭でスタート。母校のこと、郷里のこと、友人・知人の消息の話など、懇親を深め、恒例のおたのしみ抽選会も加わって賑やかに進み、最後に校歌・応援歌を合唱、渡辺八郎副会長の手締めで閉会。その後の二次会も大いに盛り上がった。

この日の出席者には、十月に母校で行われる創立百周年記念式典等への「母校応援バスター（二泊二日）」に参加の呼び掛けもあった。（写真 大橋 貞夫、文 石黒 勝夫）

# 第十七回東京水原会総会・ふるさと交流会

◎小林 広衛 会長

六月十八日（土）浅草ビューホテルにおいて第十七回東京水原会総会・ふるさと交流会を開催いたしました。

来賓者は阿賀野市より天野市長始め地元関係者の方。東京新潟県人会の役員の方。同じふるさとでの郷人会三団体の役員の方と会員を含め六十名余りの出席者で行われました。

開催前に三月十一日の東日本大震災で被害にあわれた人達にご冥福とお見舞い、そして一日でも早い復興を祈り、黙祷を捧げました。

昨年は十五周年に当たり地元の水原祭りに合せ八月二十四日に地元の天朝閣で七十余名の出席で開催され、地元関係者の皆様には大変お世話になり、楽しい交流会が行われたこと、祭り見物に出かけて楽しいひと時を過ごしたこともお話し致しました。

総会では始めに阿賀野市の天野市長そして東京新潟県人会会長代理の廣川副会長よりお祝いの挨拶を頂きました。総会では会計担当者より

二十二年度の事業と会計報告と二十三年度の事業計画及び会計予算案の報告があり、出席者全員の承認を頂き、無事に総会が終了しました。

第二部での懇親会とアトラクションでは、プロの方より歌や民謡を歌って頂き、会場からは大きな拍手を頂きました。カラオケコーナーでは大勢の方が歌い、会場を盛り上げて頂きました。そのあと恒例のお楽しみ抽選会では、地元関係者から特産品など多数提供して頂き、楽しい抽選会が行われました。



理事一同

最後には会場いっばいに水原甚句を踊り、閉会となりました。（小林 記）

# 首都圏えちご蒲原会第十一回総会

◎池田 孝一郎会長

☎〇四五―九八一―二九七五番

七月二日(土)、第十一回定時総会をお茶の水・ジュラクで催すことができた。

昨年、第十回総会を賑々しく祝ってから一年。首都圏西蒲原会からスタートして、平成の大合併によるふるさとの行政区分大変動を乗り越え、首都圏えちご蒲原会として満十年の時を迎えることになったわけだ。

この間、創立時に樹立した三本の柱(ふるさと訪問、現稲刈りツアー、ふるさとカレンダーの製作・頒布、ふるさとに関わる講演会開催)と、その後に加わった秋の歌舞伎町まつり協賛イベント、三月末に数日間催す新潟館ネスパスでの、蒲原から



ご来賓の皆さま方と

あなたへ、  
等々、会の活動に事欠くことはない。だが、旧西蒲原郡全町村郷人会の連合体

として結成されたこの会創立時の目標水準はもう少し高い。設立趣意書に謳っている「価値を持ち帰ることができる集まり」実現へ、その意識の向上を会員増強のパワーで図って行けるかどうか。次期にも果たしたい世代交代をにらみながら、マイナー・チェンジで臨む四期目のスタートとなった。

東京新潟県人会からは、春日寛会長代理をはじめ、高橋秀夫、廣川高志、川村敏夫の四人の副会長など八人の役員にご出席いただいた。

池田幸博新潟県東京事務所長、斎藤俊至西蒲原区長など、ふるさとに直結する役職の方々にも、ご足労を深謝申し上げます。



ご出席の皆さま方と

池田 孝一郎 記

# 第16回首都圏京ヶ瀬会総会開催

◎平山 百武会長

七月十日(日)十一時 上野東天紅「平成間」に於いて標題の会が総勢一二〇余名が参集して盛大に開催された。来賓としてふる里からは天野市長、議員、支所長 他京ヶ瀬地区関係者、在京からは友誼団体、東京新潟県人会から横野相談役、会長代理で廣川副会長の臨席がありました。

会場内に於いて阿賀野市の物産販売は早々に完売し、県人会一〇〇周年記念誌もコーナーで販売し、持ち込み二十四冊を残らずお買い上げ頂きました。



あいさつ 平山会長

平山会長から「会場にはふるさとから芸能保存会の皆様が大勢でお越し頂きました。ふる里に心を馳せてお楽しみ下さい」と述べられました。

議事も事業報告、事業計画案も拍手で承認されました。続いて来賓祝辞では天野市長から市の現状報告

等、県人会からは記念誌販売に協力頂いての謝辞、京ヶ瀬本多支所長からはふる里納税制度について述べられました。

第二部懇親会は長谷川、田中両副会長の司会で進行。みなみ農協組合長小林氏の発声で乾杯し宴席に入りました。

舞台上では津軽三味線の演奏、京ヶ瀬甚句、大正琴等が披露され故郷自慢に拍手喝さいであった。カラオケでは飛び入りが続きプロを思わせる達人登場。十五時、終宴を惜しみお開きとなりました。



大正琴演奏

(本部広報委員会)



稲刈りから朗読コンサート見学へ  
ツアーを引率する遠藤さん(中央)(2010.秋)

フワフワ…と、まだ湯気が出てい  
る出来立ての新品会長である。

この記事が出る頃には就任二カ月  
半ほどになっているが、今これを書  
いている時点では一カ月とちょっと。

去る六月十二日(日)に、前任の藤田  
繁会長からバトンを引き継いだばか  
りだ。

しかも、昭和三十四年三月に県立  
巻高等学校を卒業した者同士の同期  
生りレーで、ともに初代の本間春雄  
会長(現名誉会長)の副会長と幹事

長として支えて来た間柄だから「い  
ずれは…」という流れに従ったス  
ムーズな交代劇だと言える。

そして、本間名誉会長は…と言え  
ば、同じく巻高等学校で私の同期生  
だから、私にとつても岩室だいろ会  
の様子がよく見える。

ギスギスしたところの全くないこ  
の会の雰囲気は、多分、初代本間会

長のおだ  
やかさに  
よるとこ  
ろが大き  
いと思う  
のだが、  
二代目も  
三代目も  
それを自



首都圏岩室だいろ会  
会長 遠藤 哲夫さん

り、新潟館ネスパスなどのふるさと  
産品の販売で実行委員長を何度も  
やってもらったし、今期幹事長に転  
じた登石正中前任者の後を継いで  
事務局長をやってもらうことにし  
たばかり。

「県人会活動にも入って来なさい  
よ」とも言っているのだが、これに  
は少々返事が鈍い。

やる気がないわけ  
ではないのだろう  
が、彼には何しろ  
「菊」がある。

四十五歳の頃、奥  
さんの父、つまり義  
父の堀越信一さんの  
見様見真似で始めた  
菊づくりだが、今で

は横須賀菊友会の副会長で、(社)全日  
本菊花連盟の神奈川県支部長をつ  
とめる。公認指導員であり、審査員  
でもあって、そちらの方が忙しいわ  
けだ。

「菊は、面倒かけなきゃ結果が出  
ない。手を掛けたら掛けたなりに花  
になりますからね」、そこがいいと  
彼は言う。



これぞ丹精の傑作

これは、航空機の整備士(全日空)  
であったその職歴にもつながるので  
はないか。もともとは航空自衛隊入  
りでスタートし、浜松術科学校では  
操縦なども学んだが、結局整備士の  
道を選んだのだという。理論的で明  
解なところが性に合ったのだろう。

その片鱗は今も健在と言つてよ  
く、疑問はとことん追及するが、納  
得すればよく動く。これは、生来の  
ものではあるだろうが、八年の自衛  
隊生活からワンクッションおいて全  
日空へ移り三十一年、その殆どを  
ジェット機の整備に献身した人の整  
備士魂の現れと私は感じている。

七十一歳という年齢を若いとは言  
えないだろうが、判断と行動はまだ  
若い。

(広報 池田 孝一郎)

# 市町村だより あれこれ

## 新潟県下の市町村広報その他から 106

### なでしこジャパンに新潟勢

今年の県人会納涼大会（七月十八日・椿山荘）の話題を独占したのは「なでしこジャパン」の歴史的快挙であった。

このビッグニュースが克明に伝えられるたびに場内が沸いた。ドイツのフランクフルトで行われ



なでしこに沸いた納涼大会

たサッカー女子ワールドカップで、日本女子チーム「なでしこジャパン」が強豪ドイツ、スウェーデンらを降して決勝に進出、それまで一度も勝てなかったアメリカを破って世界一となった快挙は、今年一番の明るいニュースとして、場内ばかりか日本中を席巻した。

しかもその選手たちの中に、わが新潟の「アルビレックス新潟レディース」・坂口夢穂・上尾野辺めぐみ両選手が加わっていたことをお伝えした時には大喚声が沸き上った。

両選手とも翌十九日には日本に帰り、成田国際空港での凱旋帰国会見、東京都内ホテルでの記者会見などに応じた後、それぞれの自宅ではなくチームの本拠地新潟に帰った。

帰国後のインタビューで、MVPとなった主将の沢穂希選手が、「今やりたいことは…」と聞かれて「温泉に行きたいな…」と思えますけど行



(左)坂口、(右)上尾野辺両なでしこ  
(写真提供:アルビレックス新潟後援会)

けません」と答えていたように、阪口（大阪府堺市出身）、上尾野辺（横浜市出身）両選手は、早々にチームの練習に合流、七月二十四日(日)に始まるなでしこリーグに備えた。

これに対し新潟県では、阪口、上尾野辺両選手に県スポーツ賞を授与、ホームタウンの聖籠町や新潟日報社からも賞が贈られるなど贈賞ラッシュとなっているが、JSC（JAPANサッカーカレッジ・聖籠町）でも来春から高等部に女子枠を開設し、寄宿舎も新設して全国から選手を受け入れると発表した。

※その後（八月二日）、政府は「なでしこジャパン」に国民栄誉賞を授与することを決め、発表した。

### 中越沖地震から四年

さて、納涼大会と言えば、今から四年前の納涼大会（平成十九年七月十六日、この年の会場も椿山荘）を覚えておられるであろうか。

あの日、開会直前に入ってきた中越沖地震発生ニュースは、納涼大会出席の予定ですでに東京に着いておられた方々を含め、県・市町村の首長の皆さんが一斉に郷里へ引き返される事態となり、当会側ではその対応を話し合う緊急会議を開き、私もギリギリまでその場に居残ったから開会のアナウンスをしたことを思い出す。

あれから満四年。新潟県、柏崎市、刈羽村による合同追悼式が柏崎市市民プラザで行われた。

参列者は、亡くなった十五人の遺族ら四百三十人で、犠牲となった方々を深く悼むとともに東日本大震災の犠牲者にも思いを致して哀悼し、その復旧復興への協力を祈りに込めた。

追悼式に臨んだ会田洋柏崎市長は、全国から受けた支援に感謝の言葉を述べ、併せて柏崎市や刈羽村に



思いを伝えるキャンドルの火  
(写真提供:新潟日報)

避難している二千数百人を含めた今回の被災者支援にもこれまでの体験を生かして行きたいと表明した。

この日各地で行われた交流イベントでは木製楽器コカリナのコンサートや和太鼓の演奏などがあり、夜になって街角各所に灯されたキャンドルには7・16と3・11の文字が並んでいた。

### 北陸新幹線新駅名募集

ここで、二〇一五年春開業予定の北陸新幹線駅名募集のお知らせ。

納涼大会の場内でちらしが配られていたから、すでにご存知の方も多いだろうが、応募締め切り(九月十六日)まではまだ少しあるので、興味のある方はトライしてみたいかがだろうか。

募集しているのは、上越市にでき

る北陸新幹線新駅の駅名で、ここでは官製はがきでできる応募について記しておく。

はがき一枚には一つの駅名しか応募できないが、何通応募してもかまわない。留意事項としては、地域を総称し、地域をPRする名称で百年先も愛される駅名であること。記載事項としては、新幹線の駅名とその理由(漢字で応募する場合は必ずふりがなをつける)、住所、氏名、年齢、性別、それともう一つ、応募コースを記入する。これは、**A**上越地域の四季を食す満腹コース、**B**上越地域のこだわりの酒を楽しむ利き酒コース、**C**上越地域の四季を満喫する体験コース、**D**北陸新幹線ゆかりの鉄道グッズの四種があり、抽選で当たるかも知れないプレゼントだ。

宛先は〒943-18601、新



潟県上越市木田1-1-13、上越市新幹線・交通政策課、新幹線まちづくり推進上越広域連携会議。

いささか長い宛先ではありますが。

### くじける新潟

ラスト項目は、締め切り後、急遽記事の差し変えをすることにした。

七月二十日、台風六号がもたらしたフェーン現象によって、三条市で38・4℃と全国最高気温を記録、新潟市で38・0℃、長岡市でも37・9℃を記録して、この日全国一の猛暑県となった故郷新潟に、一週間後、記録的な豪雨が襲いかかった。

七年前(平成十六年)の「7・13水害」を超える猛烈な豪雨禍で、五十嵐川、破間川、羽根川、茶郷川、牧川、登川などが次々と決壊。死者、行方不明者を出し、家屋の浸水、崩壊、田畑の冠水、土砂崩れ、道路の崩壊等々が相次いで、避難指示・勧告が住民四十数万人に及んだ。

この豪雨は、新潟県付近に停滞していた前線に向かって本州の南海上にあった太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み、北のオホー

ツク海高気圧からは冷たい湿った空気が流れ込んで前線の活動を活発化させたものだ。

二十七日からの雨の総量は、新潟地方気象台の観測地点で最大600ミリを超え、7・13水害時(平成十六年)の400ミリ台を大きく上回った。中でも7・13の一番の被災地三条市では、今回も1000ミリ超の累計雨量を記録、五十嵐川の堤防は一部で決壊したが、前回の教訓を生かした改修工事と住民による避難訓練の積み重ねが被害を思いのほか少なくとどめ、犠牲者を出さずに済むことに結びついたということだ。

しかし、田畑の冠水被害や市街地の排水等々は、なお多くの課題を残している。呻く思いだ。

(広報 池田 孝一郎)



濁流に土台をえぐられた三条市の工場(写真提供:新潟日報)